

## 積雪寒冷地の生活と諸問題

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

この演習は、5～6回および8～15回を12グループ程度に分け、グループ毎に演習を行う。

《担当者名》 鈴木英樹 長谷川純子 大内みふか 浅野葉子 朝日まどか 児玉壮志 佐藤一成

### 【概要】

リハビリテーションを進めていく上での基盤となる「人々の生活」と「地域特性」に関する興味を涵養し、積雪寒冷が人々に及ぼす影響と、健康増進のための方策について学ぶ。

### 【学習目標】

#### 一般目標

北海道の風土と生活について理解を深めるため、道内各地域の個性ある風土から形成された産業、文化の特徴、生活上の諸問題を、具体的な事例をあげながら分析し、そのことを通して地域理解と地域の課題解決のための糸口を説明できる。また、積雪寒冷地が抱える生活課題を理解するために、積雪期と非積雪期の生活の相違や積雪寒冷が心身に及ぼす影響について学び、その影響や、影響軽減のための方法について説明できる。積雪寒冷が地域住民の生活に及ぼす様々な影響を理解する。

#### 行動目標

1. 積雪寒冷地特有のライフスタイル（衣）について説明ができる。
2. 積雪寒冷地特有のライフスタイル（食）について説明ができる。
3. 積雪寒冷地特有のライフスタイル（住）について説明ができる。
4. 積雪寒冷地の人々が抱える生活の現状や課題を説明することができる。
5. 積雪寒冷地の人々が抱える生活課題の改善のための具体的な提案ができる。

### 【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション、積雪寒冷が健康に及ぼす影響	・積雪寒冷地の生活と諸問題を学ぶ意義について ・講義の進め方について ・積雪寒冷が地域在住高齢者に及ぼす影響（身体機能面を中心に）	鈴木英樹
2	積雪寒冷が健康に及ぼす影響	・積雪寒冷が地域在住高齢者に及ぼす影響（心理社会面を中心に）	浅野葉子
3	地域在住高齢者の健康課題	・ロコモティブシンドローム ・転倒自己効力感スケール ・当別シャッキリ体操	鈴木英樹
4	地域在住高齢者の健康課題	・生活行為確認表 ・昨年のフィールドワークの結果について	浅野葉子
5 ┆ 6	高齢者向け生活不活発病予防のリーフレット作成	・感染症予防 ・家庭内でもできる体操や活動等の紹介	全教員
7	積雪寒冷地での生活現状を知る	・生活スタイルや住民の特徴 特別講師 池田貴夫	鈴木英樹
8 ┆ 9	フィールドワークに向けたオリエンテーション	・フィールドワーク（学内・学外）の目的や具体的な実施方法について理解する	全教員
10 ┆ 11	フィールドワーク	【学外】 ・地域の高齢者クラブへ出向き、健康課題解決に向けたリーフレットを元に提案を行う ・介護予防体操（当別シャッキリ体操）の実践 【学内】 ・地域の高齢者クラブへ連絡を取り、送付したリーフレットについて・コロナ禍での生活状況について・当別シャッキリ体操の実施状況について、など聞き取り調査を行う。	全教員

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
12 }	後期のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークのまとめ</li> <li>・高齢者クラブへのお礼状（カード）の作成</li> </ul>	全教員
13			
14 }	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義での学びとフィールドワークについて振り返る。</li> </ul>	全教員
15			

**【評価方法】**

レポート 50%  
定期試験 50%

**【備考】**

教科書：坂倉恵美子編著 積雪寒冷地における高齢者の居場所づくり (株)ワールドプランニング 2014年

参考書：須田力他著 積雪寒冷地における高齢者の生活と運動 北海道大学図書刊行会 1997年  
池田貴夫著 なにこれ!?北海道学 北海道新聞社 2013年

その他：フィールドワーク時にはグループ分けを行う。

**【学習の準備】**

当別町をはじめ、雪国の暮らしや文化に興味を持って講義に臨むこと。

予習に関しては、次回講義内容に関する点について教科書や参考書を読んでおくこと（80分）。

また、地域演習に際しては、コミュニケーションや問診技術等について十分に予習し臨むこと。

復習に関しては、配布資料や講義内容に基づき、適宜教科書も読みながら講義内容を復習し次回講義に備えること（80分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病气やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って理学療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

**【実務経験】**

鈴木英樹（理学療法士）、長谷川純子（理学療法士）、大内みるか（理学療法士）、佐藤一成（理学療法士）浅野葉子（作業療法士）、朝日まどか（作業療法士）、児玉壮志（作業療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関及び介護保険施設・行政からの委託事業での実務経験を活かし、講義する。